

## 論説

## 21世紀へむかって

創立40周年



## 校舎眺望



## 祝40周年記念特大号

学校長 ゲエタン・ラバディ



## これから洛星に望むこと

理事長 奥本裕明

写真









去る10月9日にメイフラワー前の西大路通りで、本校中学の乗る自転車と南下する乗用車との接触事故があつた。白梅町の南行信号が赤であったため、内側車線のバスが通りの分の間をあけて停車していたので、安全だと思い渡つたところ、外側車線から前へつめようとした車と接触した。幸い当人は大事に到らなかつたが、自転車はつぶれていたそうだ。

自動車側も一時停止を怠つたという過失責任はあるが、あの交差点は本来渡つてはいけなくて（交通標識をみればわかる）、法的に違反をした生徒側にも過失責任がある。その他にもその交差点を渡る生徒は多くいる。

そこで新聞局では、11月のある土曜日の2時間、事故現場を横断した30人程の人を対象にアンケート方式の調査を行なつた。

その結果によると、この交差点で起つた事故を知つていた人は、一般の人はもちろん本校生の中にも少なかつた。これは当然の結果かもしれないが、この交差点を渡つて危険だと思う人は解答者の五割以上を占めた。つまり、危険と知りつつ渡つているのだ。

# 見直そう交通マナー

改築される中央校舎は鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造五階建てで、現在よりも全面左右に張り出した形となる。外観は石造りを模したシックな仕上げで、ステンドグラスも使われる予定（写真参照）。また車椅子対応の九人乗りエレベータが設置される。

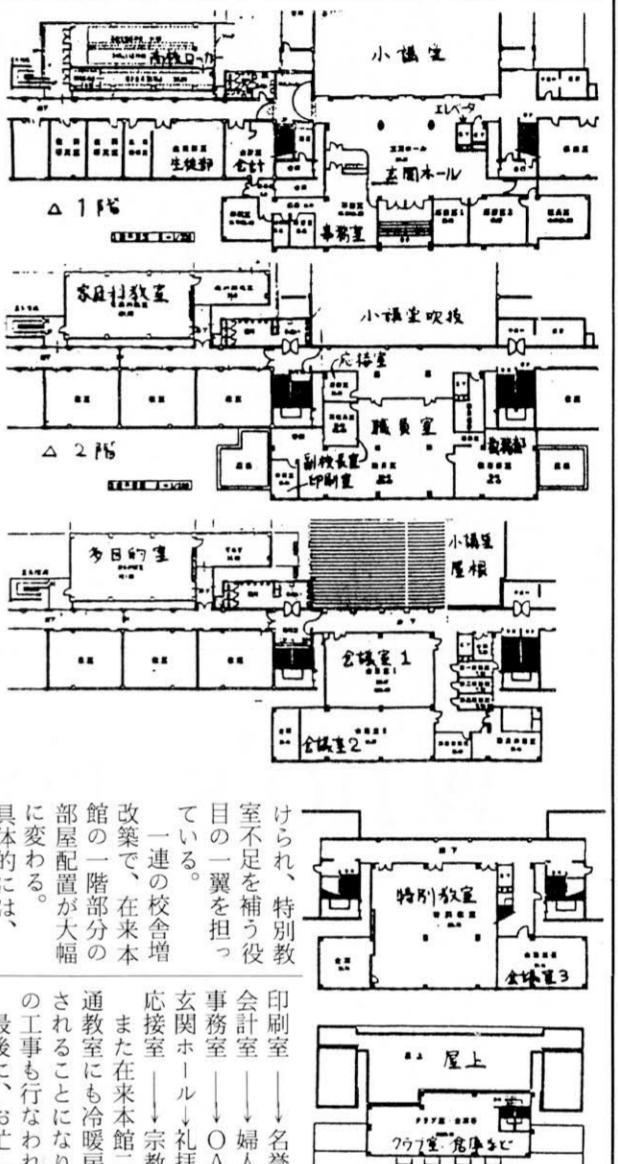
入口の石段をあがって中に入れば、目の前に改装された小講堂につながる玄関ホールが広がり、右手には校長室・応接室などが連なっている。手直しされた中央階段を二階に上がつてみるとそこは職員室ゾーン。広く明るくなつた職員室に入ると右手前に副校長室、左手奥には教務部室が見渡せるミニロビーもある。

今年創立四十周年を迎えた我が洛星中・高校であるが、このたび四十周年記念事業として本館校舎の一部増改築工事が行なわれることになった。我々としても非常に興味深いこの計画について、理事長の奥本先生・校長先生に取材した。

た。事故のあつた交差点は、グリーンベルトによつて見通しが悪いとも言われた。

また、希望として、歩行者または自転車の常識・ルールを守つてほしい。ということであった。

今回の事故では、たまたまバスが停車していて見通しがきかなかつたことが直接の原因となつた。大事に到らなかつたことは不幸中の幸いであつたが、再度このようないふ事故が



## ありし日のラトレー神父

# ラトレーニー神父様、逝く

「引退にあたって残す10通の遺言」	
私が新聞局に入つて、間もなく4年がたつ。洛星は40周年を迎へ、新聞局もかつてなかつたような黄金時代にある。	中学生も論説を書き始めたことに象徴される局員の活発な活動を見るにつけ、私の論説もこれで終わりにしようと考える今日この頃である。
引退を前に、新聞について、いくつか言い残しておきたい。別にこれは後輩に対する私の命令なんかではない。私が提起する10のポイントについて編集の合い間に考えてほしいということなのだ。	②記事は誰が書くものか？もちろん局員自身が書くのだ。過度な依頼原稿はイタビューにおきかえるものつの手だ。
「新聞のあるべき姿とは何か」この問い合わせには、読者の方々にも様々な意見があるが、今回は記者の側からの主張をしておきたい。	③事実の斬り方 学校新聞は、毎年決まり行事をありきたりに伝えるだけでは面白くない。決まり行事でも、様々な角度からすることが重要だ。
④論説の威力 新聞には、主觀の入りえ箇所が二つある。一つは事の斬り方、もう一つは論説である。	

後者の方が直接的に人の影響が大きい。記者も、それだけ大きいとだ。  
⑤主観と客観  
この二つのバランスがだ。あまりに客観的には、事実の一つの面しかられないことになる。といって、感情にまかれて、事を書いてしまえば、宣伝ビラと同等になつう。  
⑥新聞記者の特権  
新聞局員は、洛星（と言つていい）言論特権を与えられた存在で、それだけに責任も重い  
⑦読みやすさ  
新聞とは読んでもらう必要がある。また、

に与え  
の責任  
言う事  
軟らかい、コミカルな内容  
記事を入れるのもいいかも  
れない。

で唯一  
という  
である。  
。 うも  
意を払  
時には

が重要  
過ぎれ  
か伝え  
だから  
せて記  
新聞は  
てしま  
る。

⑧他校・過去の新聞との比  
自己満足してしまえばお  
まいだ。他校との交流を密  
して、編集の方法や事実の  
り方を研究するのは重要だ  
私自身、灘や鈴蘭台の新聞  
ら得たものは少なくなかつ  
過去の新聞については、前  
効果の他に、正しい洛星  
史を知ることができるとい  
効果もある。

⑨学校批判記事  
「常に批判的な目でもの  
見よ。」よく言われることば  
しかし、一方ではこの見方  
タブーとされ、S女学院の  
うな学校賛美の新聞が目に  
くことにもつながっている  
はつきり言うが、自画自  
一色の記事からは何も生まれ  
ない。

新聞のもう一つの効用  
批判記事は、裏を返せば  
学校の発展の機会を作つて  
ることにもなる。学校を發  
させることは、新聞の目的  
もある。  
私は、この10のポイント  
新聞を作る上で重要だと考  
るが、読者の方がどのよう  
受けとるかも興味深い。

# 高校生のパワーに拍手喝采 '91 私学デー無事終了

「引退にあたって残す10通の遺言」

私が新聞局に入って、間もなく4年がたつ。洛星は40周年を迎える。新聞局もかつてなかつたような黄金時代にある。

中学生も論説を書き始めたことに象徴される局員の活発な活動を見るにつけ、私の論説もこれで終わりにしようと考える今日この頃である。

引退を前に、新聞というものについて、いくつか言い残しておきたい。別にこれは後輩に対する私の命令なんかではない。私が提起する10のポイントについて編集の合い間に考えてほしいということなのだ。

新聞のあるべき姿とは何か

この問い合わせに対しては、読者の方々にも様々な意見があるが、今回は記者の側からの10の主張をしておきたい。

④論説の威力

新聞には、主觀の入り込んだ箇所が二つある。一つは記事の斬り方、もう一つは論説である。

③事実の斬り方

学校新聞は、毎年決まり行事をありきたりに伝えるだけでは面白くない。決まり行事でも、様々な角度からすることが重要だ。

②記事は誰が書くのか？

もちろん局員自身が書くのだ。過度な依頼原稿はイヤビューオンにおきかえるのも手だ。

①新聞の第一義的目的。

新聞とは、事実を早く読むに伝えるのが第一であろう。一面から、論説や依頼原稿固めては、新聞の本質が疑われる。



ありし日のラトレー神父

# ラトレー神父様、逝く

以前本校で長年英語を教えておられ、カナダに帰国されていたヴィアトール会のジャック・ラトレー神父様が、去る十月十五日午前九時十五分（日本時間午後十一時十五分）心臓発作のため急逝された。六十一才だった。

ラトレー神父様はカナダ・ケベック州出身。昭和三十二年に渡日され、翌年から洛星で英語を教えておられた。若い頃は非常に厳しい先生だったそうだが、後年はその怡幅の良いお姿と共に、独特の語り口で生徒にも人気があった。「耳が遠くなり、これ以上生徒に迷惑はかけられない」という理由で平成元年度をもつ

て定年を前に退職。以来カナダに帰国され、布教活動に従事しておられたが、いざれは再び日本で仕事をしたいとの希望を持っていたと言われる。亡くなつた朝は、いつものように朝食をとっている時に突然倒れ、救急車で病院に運ばれたが、手遅れであつたと

いう。

本校では、ラトレー神父様の追悼ミサが去る十月二十四日午後三時から聖堂にて行わられ、教職員・生徒などおよそ九十人が参加した。

ラトレー神父様の死を悼み



私に愛されたい。子供らが喜ぶ。七三ぶつて、京都の市井で結婚式をあげる。

十一月十日、烏丸下立売の平安女学院において、91劇『一』が開催された。今年度は新たに高校生によるオリジナル上演劇班が取材した。

<p>退にあたって残す10通の</p> <p>本校で長年英語を教え られ、カナダに帰国され フィアトール会のジャッ トレーニー神父様が、去る 五日午前九時十五分 (午後十時十五分) 五日午前九時十五分 (午後十時十五分)</p> <p>非常に厳しい先生だっ たが、後年はその恰幅 お姿と共に、独特的の語 レー神父様はカナダ・ ク州出身。昭和三十二 日され、翌年から洛星 を教えておられた。若 庄徒にも人気があつた。 なくなり、これ以上生 徒はかけられない」と 由で平成元年度をもつ</p>	<p>生も論説を書き始めたこ 4年がたつ。洛星は40周 迎え、新聞局もかつてな にような黄金時代にある。</p> <p>生も論説を書き始めたこ 4年がたつ。洛星は40周 迎え、新聞局もかつてな にのような黄金時代にある。</p>	<p>新聞とは、事実を早く読 に伝えるのが第一であろ 一面から、論説や依頼原稿 固めては、新聞の本質が疑 れる。</p>
<p>逝く</p>  <p>新聞のあるべき姿とは何か」 の問い合わせに対しては、読者 々にも様々な意見がある 今回は記者の側からの 主張をしておきたい。</p>	<p>「おきたい。別にこれは後 対する私の命令なんかで い。私が提起する10のボ トについて編集の合間に えてほしいということな づいて、いくつか言い残 つておきたい。</p>	<p>①新聞の第一義的目的。 新聞とは、事実を早く読 に伝えるのが第一であろ 一面から、論説や依頼原稿 固めては、新聞の本質が疑 れる。</p>
<p>新聞の威勢</p> <p>新聞には、主觀の入りえ 箇所が二つある。一つは事 事の斬り方、もう一つは論説 ある。</p>	<p>②記事は誰が書くものか？ もちろん局員自身が書く のだ。過度な依頼原稿はイ タビュにおきかえるのも つの手だ。</p>	<p>③事実の斬り方 学校新聞は、毎年決ま 行事をありきたりに伝える けでは面白くない。決ま 行事でも、様々な角度から することが重要だ。</p>
<p>希望を持っていたと言われる 亡くなつた朝は、いつもの ように朝食をとつてゐる時に 突然倒れ、救急車で病院に運 ばれたが、手遅れであつたと いう。</p>	<p>④論説の威力 新聞には、主觀の入りえ 箇所が二つある。一つは事 事の斬り方、もう一つは論説 ある。</p>	<p>⑤新聞の第一義的目的。 新聞とは、事実を早く読 に伝えるのが第一であろ 一面から、論説や依頼原稿 固めては、新聞の本質が疑 れる。</p>



— 1 —

